

京都大学人文科学研究所国際研究ミーティング実施報告書

1. 国際研究ミーティングの名称

日本における信仰と「知」のはざま ― 中世・近世・近代を中心に ―

2. 主宰責任者氏名

マルタン、ノゲラ・ラモス(フランス国立極東学院、京都大学人文科学研究所客員准教授)、鈴木堅弘(京都精華大学)、平岡隆二(京都大学人文科学研究所)

3. 開催日時等およびプログラム(講演者名または報告者名を明記してください)

①日時:2019年12月7日土曜日 18:00~20:00

場所:フランス国立極東学院京都支部

演題等:江戸の幻術と、その使い手たち―果心居士の物語を中心として―

講演者または報告者:門脇 大氏(神戸星城高等学校・非常勤講師)

②日時:2020年1月17日金曜日 18:00-20:00

場所:京都大学人文科学研究所一階セミナー室1

演題等:「夜の訪問者」:幽霊の比較文化史を考える

講演者または報告者:フランソワ・ラショウ(フランス国立極東学院)

③日時:2020年2月21日金曜日 18:00-20:00

場所:フランス国立極東学院京都支部(EFEO Kyoto)

演題等:キリシタン布教における理性と信仰

講演者または報告者:平岡隆二(京都大学人文科学研究所・准教授)

4. 概要(400字程度)

日本の歴史における「信仰」と「知」の交点に着目し、双方が未分化の時代における「民間習俗の実態」や「民衆の思想観」がどのようなものであったのかという問題を取り上げた。また、本題における「知」とは、近代学問が成立する以前の医術、占星術、本草学、陰陽道、呪術、修験道、和算、茶道、仏教教理、職工技術、もの語り、詩文、画道など多岐にわたるものである。科学や医学、文学などの近代学問が成立する以前に、これらの「知」の祖型は、いかにして人びとの生活に根ざし、世俗民の生々しい信仰と結びつくなかで、独自の発展をとげてきたのか、その理由や経緯を、14世紀から19世紀の日本における民衆社会の歴史を通じて考察した。発表者は日本の宗教文化に関する研究を行っている外国人と日本人であり、セミナーへの参加者は研究者はもちろんのこと大学院生・学部生も対象とした。

5. 参加者(別紙「参加状況」も記載してください。)

①学外:鈴木堅弘(京都精華大学講師)、ノゲラ・ラモス・マルタン(EFEO 准教授)、シルヴィオ・ヴィータ(ISEAS 教授)、堤邦彦(京都精華大学教授)、リュウシュ・マルクス(龍谷大学)、チャン・ボク

①学内:ニールス・ファンステンパール(教育学研究科)

①所内:平岡隆二

②学外:鈴木堅弘(京都精華大学講師)、ノゲラ・ラモス・マルタン(EFEO 准教授)、シルヴィオ・ヴィータ(ISEAS 教授)、堤邦彦(京都精華大学教授)、リュウシュ・マルクス(龍谷大学)、チャン・ボク、Hans

Bjarne Thomsen(チューリッヒ大学教授)、アンドレア・カステリオーニ(名古屋市立大学)、シリアン・ピッテル(EFEO)、久留島元(京都精華大学)、金子文子(建築デザイナー)

②学内:木村勇生(学部生)、パク・ミギョン、ニールス・ファンステンパール(教育学研究科)

②所内:稲葉穰、中西竜也、平岡隆二、中西竜也

③学外:鈴木堅弘(京都精華大学講師)、ノゲラ・ラモス・マルタン(EFEO 准教授)、シルヴィオ・ヴィータ(ISEAS 教授)、藤本憲正(日文研)、カロリーナ・カパツ(京都府立大学)宮崎文子(恵泉女子学園大学名誉教授)、トロヌ・カルラ(ISEAS)、萩原伊玖子(一般)、中津匡也(パリ第7大学)

③学内:ステファン・アイヴィング(経済学部)、大槻信(文学研究科教授)、岡部友樹(アジア・アフリカ研)、劉青(文学研究科博士課程)、阿久根 晋(人環)

③平岡隆二、福谷彬、古勝隆一

6.助成金の使途等

フランソワ・ラショウ氏の招へい旅費

7.その他(成果や今後の展開等、自由に記載してください)

来年度も、同様の国際ミーティングを継続する。「日本における信仰と「知」のはざま — 中世・近世・近代を中心に —」というテーマで四回の研究会を開く予定である。

参加状況

区分	機関数	参加人数					延べ人数				
		総計	外国人	40歳未満	35歳以下	大学院生	総計	外国人	40歳未満	35歳以下	大学院生
学内(法人内)	6	20 (11)	7 (3)	7 (3)	7 (3)	5 (2)	28 (11)	9 (4)	12 (5)	12 (5)	6 (2)
国立大学		()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
公立大学		()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
私立大学	4	6 (2)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	6 (3)	4 (1)	4 (2)	4 (2)	4 (2)
大学共同利用機関法人	1	2 (1)	()	()	()	()	2 (1)	()	()	()	()
独立行政法人等公的研究機関		()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
民間機関	2	2 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	()	2 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	()
外国機関	7	13 (4)	13 (3)	3 (2)	3 (2)	2 (2)	18 (4)	18 (4)	6 (4)	6 (4)	3 (2)
その他		10 (5)	()	()	()	()	12 (7)	()	()	()	()
計	20	53 (24)	23 (8)	13 (7)	13 (7)	9 (5)	68 (27)	32 (10)	23 (12)	23 (12)	13 (6)

※()内には、女性数を記載

※受入機関、受入人数、延べ人数を区分に応じて記入してください。

※外国人、若手研究者(40歳未満)、若手研究者(35歳以下)、大学院生の人数はそれぞれ受入人数、延べ人数に対しての内数を記入してください。

※受入人数、延べ人数については上段に総数を下段に()で女性の内数を記入してください。

※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入してください。

※受入人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出してください

国際研究ミーティングに参加者2人が3回参加した:受入人数2人、延べ人数6人

